

第6次高浜市総合計画推進会議（第3回） 会議録

日時	平成25年9月25日（水）午後7時00分～8時20分		
場所	高浜市役所 第2会議室（4階）	傍聴人数	15名
出席者	委員	中川幾郎、小笠原芳夫、中川勝利、竹内一仁、鈴木康博、神谷環光、竹内亨弘、井野代司彦、杉浦盛仁、古橋知美、神谷通夫、杉浦幸七 (12名出席)	
	行政	財務グループ リーダー 竹内正夫（財政分科会リーダー） 文化スポーツグループ リーダー 内藤克己（生涯学習分科会リーダー） 教育センターグループ 主幹 神谷理（学校教育分科会リーダー） 経営戦略グループ リーダー 山本時雄（産業・観光分科会リーダー） 市民生活グループ リーダー 山下浩二（環境・憩い分科会リーダー） 都市防災グループ リーダー 芝田啓二（防犯・防災分科会リーダー） 地域福祉グループ リーダー 杉浦崇臣（地域福祉分科会リーダー） 保健福祉グループ リーダー 加藤一志（健康分科会リーダー） (8名出席)	
	事務局	企画部長 加藤元久 地域政策グループ リーダー 岡島正明（自治推進分科会リーダー） 同 主幹 三井まゆみ 同 副主幹 鈴木明美 同 主査 山本衣江 同 主査 山本久美 同 主事 榊原雅彦 同 主事 中村彩 同 主事 岡田真吾 (9名出席)	
次第	1 あいさつ 2 議題 1) 分科会での「点検・確認」結果を発表 2) 分科会活動状況について情報共有 3) 第2回市民会議の進め方について 3 その他 分科会対抗ボッチャ大会について		
資料	資料1：第6次高浜市総合計画推進会議（第2回）会議録 資料2：分科会での点検・確認結果 資料3：分科会の「取り組みテーマ」と分科会開催状況 資料4-①：第2回市民会議次第（案） 資料4-②：第2回市民会議 進め方イメージ 資料5：分科会対抗ボッチャ大会について		

1. あいさつ

- ・第3回推進会議を始めさせていただく。本日は、「分科会による点検・確認のとりまとめ結果の発表」がメインテーマとなっている。

2. 議題

1) 分科会での「点検・確認」結果を発表

- 会 長：
- ・議題1『分科会での「点検・確認」結果を発表』に入らせていただく。
 - ・今年度の市民会議は分科会中心の運営ということで、昨年度の取り組みに対しての「点検・確認」作業も、この8月から9月初旬にかけて、各分科会において行われたとのこと。その内容が、資料2『分科会での点検・確認結果』に取りまとめられている。
 - ・今日は、委員の皆さんから、ご自分の分科会からはどのような意見・アイデアが出たかということをお場で発表していただくことになっているが、振り返りの意味も込めて、この「分科会での点検・確認作業」の全体的な経緯、目的等について、事務局から簡単に説明をお願いしたい。

事務局より、資料2『分科会での点検・確認結果』について説明。

- 会 長：
- ・分科会において、点検・確認を行う中で、特に市民メンバーの皆さんから多く寄せられた感想や思い、来年度から始まる「中期基本計画」につなげていくアイデア、あるいはご意見の中で「特にこの部分には思い入れがある」といったポイントについて、委員の皆さんからご発言いただきたい。
 - ・14目標あるため、1目標につき2分以内とさせていただく。基本計画の目標の順番にご発言いただこうと思うが、2つの目標を担っている委員の方は、2つ続けて4分以内でお話いただきたい。

- 委 員：
- ・目標（1）については、大きな目標が2つ。1つは、キャッチフレーズをしっかりと浸透させていこうということ、もう1つは、地域活動に参画する人を増やしていこうということで、どちらも目標を達成している。
 - ・キャッチフレーズについては、のぼりやジャンパーの作製などにより、よく広まった。市民会議への参加者数も目標を達成し、市の職員との距離が近くなり非常に良かったと思う。一緒にまちづくりを行っていくという上で、こうした機会は重要なため、今後も何らかの形で市民参画の場をもっと設けていただきたい。
 - ・より一層、みんなで力を合わせてまちづくりを行っていくため、みんなが高浜市を“自分のまち”と考えられることが大切。そういう気持ちを育むため、もっと多様な市民が集まり、まちへの愛着・誇りを高める取り組みを行う場をつくっていくと良い。この2つを重点的に取り組んでいただきたい。
 - ・目標（3）については、自治基本条例を知っている人の割合を増やすということで、昨年度は、小学校への出前授業を行った。市全体で、意識がどんどん高まってきていると思う。子どもに対してアプローチしていくことは、良

いことだと思う。これからを担う市役所の若手職員も、子どもと合わせて、意識を引っ張り上げていくことが大事。今後、より力を入れていただきたい。

- ・出前授業をこれから実施していくが、ぜひ、高浜カリキュラムに正式に組み込み、継続して実施していけるようにしていただきたい。
- ・これまで活発になってきた地域活動が、より自主的に行われ、行政も地域と密着してまちづくりに取り組んでいくため、今、使われている交付金を、地域でより活発に活用していただけるよう、地域に任せるような形、使い方を考えてみてはどうかと思う。

委員：・目標（２）については、もっと多くの市民に、財政に親しんでいただくため、今、財政ゲームやクイズを検討しており、11月1日号から広報たかはまにクイズを出していこうと企画している。今年は、若い人が市民メンバーとして入ってきてくれたため、分からない中でもいろいろと意見を言ってもらい、公の財政にも関心を持ってもらうことを、市民（分科会メンバー）から浸透させていきたい。銀行が公の金利を出す場合、通常では無いような金利を出す。その辺りが行き違いを起こす大きな原因かと思う。この辺りも含め、健全な財政運営を行うという部分で、しっかり見ていきたいと思う。

委員：・目標（４）については、昨年度は、まちの達人をつなげることなどを実施してきた。行事やイベントなどいろいろな形で方策を考えているが、情報発信を上手くしていくことで、施策１つ１つに効果があると公平に評価していただけたらと思う。上手に情報を発信することが課題。企画倒れになることもあり得るが、PDCAをしっかりと回しながら、めげずにつなげていくことが大切だと考えている。

- ・もっと良くするためのアイデアとして、生涯学習という分野のため、子どもだけでなく、シニアの力も取り入れたり、「高浜（まち）の学校」という冠をいろいろなところで提供し、情報発信することで、相乗効果を期待したい。
- ・目標（６）については、子どもの成長を支えていくことが大切だということは当分科会に限らず、みんなが考えているところ。待機児童などの課題については、新しい保育園もできるなど、民間活力を活用した形で解消しつつあるということで、固定観念に捉われず、そういったことも十分に活用していけたら良いと思う。
- ・その中で、既存の取り組みである笑顔の写真展などをアピールすることが、いろいろなつながりや、子育てを支えることにつながってくると考える。

委員：・目標（５）については、教育基本構想を策定し、昨年まで9つの委員会に分かれ、市民としては、学校支援ということで活動してきた。地域や保護者を含めたいろいろな方が、学校に対し、「こんなことを手伝いたい」、「こんなことをやってはどうか」という思いを持っている反面で、学校側は、新学習指導要領などにより授業時間が増えたことで、学芸会をやめるなど非常に厳しい状況にあり、地域のやりたいことと学校のやってほしいことがなかなか

合わないという現状があるというのが、昨年度感じたこと。学校にとってもより良い活動を地域で支えたり、保護者やいろいろな方とサポートしていくということで、具体的にどうしたら良いか迷っていた。

- ・もっと良くするためのアイデアとして、今年度は委員会も3つに絞った。その中で、地域と学校の想いのマッチングを進めつつ、それだけではなく、具体的な活動も実践していきたいということで、学校防災をテーマに具体的に取り組んでいきたいと思っている。学校のカリキュラムも検討するが、簡単に答えが出るものではない。各分科会でも学校を絡めて実施したいことがあると思うが、長い目で見ていただきたいと思う。

- 委員：
- ・目標（7）については、2012年の工業統計が11月に発表される指標については、進捗状況の評価はできていない。しかし、昨今の経済状況の中で、2011年は製造品出荷額等も下がり、小売商店の店舗数も減っているため、2012年も厳しい数字が出ると思っている。その反面、市民意識調査の結果としては上昇傾向にある。
 - ・前回、30～50代の数値が低いという意見があったため、意識して分科会で話をしたところ、働き盛りの年代の数値をもっと精査して、厳しい見方をしなければ、まちの成長を支えるエンジンとして、産業が元気になっていかないのではないかという意見もあった。
 - ・組織化・法人化した農業者団体の数は、2013年に目標1団体となっているが、農業に携わっている方からは、高浜の農業は、これからどうなっていくのか不安という声もある。
 - ・もっと良くするためのアイデアとして、更なる企業誘致に向けての努力や、思い切った施策が必要であると考えている。地場産業の支援策として、三州瓦を、被災地3県を重点地区としてPRしているが、北関東、九州地域も大きな市場であり、被災地以外の市場も見据える必要があるのではないかと。
 - ・目標（8）については、指標には、コミュニティビジネスの事業数やまつり・イベントの来場者数を上げたが、来場者数はすでに達成済みであり、今後は、中期基本計画の案を検討する別の会議で新たな目標値が決まるとのことなので、指標については、分科会ではあまり触れずに点検・確認を行った。
 - ・コミュニティビジネスはまだまだ勉強・準備段階であるという印象。“とりめしを通じてのまちおこし”ということも、もっと市民みんなに周知して、応援していく必要がある。愛知県内では、豊川市のいなりずしと高浜市のとりめしが出展するというので、斜に構えた見方をすると、飲食業者だけが盛り上がるのではないかと意見もある。しかし、本来は、とりめしをツールに、まちに多くの人に来てもらう“まちおこし”である。もっとその本来の趣旨を周知して、“とりめしを通じたまちおこし”をPRすることで、多くの方に高浜市に来ていただけるのではないかとと思う。長期的に、とりめしという文化、ツールを育ててほしいという声もある。

- ・コミュニティビジネスは補助金だよりとならないよう、ビジネスの芽を育てていただきたい。先ほども述べたが、とりめしを通じてのまちおこしも力を入れてほしい。地域資源については、常に新たなものを発掘する意識が必要。地場産業、とりめし、かわら美術館、人形小路などいろいろあるが、常に新たなものを発掘し、SNS などを通じて情報を発信し、多くの方に、「高浜市ってどこにあるの？」ではなく、「こんなものがあるんだ！」を知ってもらえるような発信をすることで、ビジネス、観光、まちのエンジンにつながっていくと考えている。

- 委員：
- ・目標（9）については、分科会が中心となって進んでいるが、メンバーがさまざまな市民の声も吸い上げ、それを分科会で取り上げていくという方法を取ってきた。
 - ・目標が達成された姿には4つあるが、まちづくり指標や市民意識調査結果のデータにあるように、4つの内3つは、着実に成果があり、よりレベルアップもできると考えている。3つ目の「ごみの散乱がなく、きれいで住みやすいまちになっています。」は、非常に大きな難しい問題である。思い切った取り組みと、大きなコストや負担がかかり、アイデアだけでできるかが課題。ごみの問題は、きちんとしたくても、生活設計の中でみんなと同じようなアクションが取れない（体が不自由など）という人もいる。わざと不法投棄やポイ捨てなどを行う人もいる。どうしたらいいかわからない、情報が入ってこないという人もいる。こういった人を対象にして、3つ目の姿に持っていく方法はないか考えてきた。目標（11）とも関連するが、高浜市はモデルになるような整備状況とは言えず、まちを歩くと、ポイ捨ても目につく。これを、これからどう取り組んでいくかということで、常に話題となっている。
 - ・その中で、3つ目の姿への活動は、本当に一筋縄ではいかないと感じている。行政の政治判断も含めた進め方をしなければいけないと考えている。理由があり、みんなと同じように取り組めない人のために、ごみ出しなどの規制を緩和して、作業しやすい環境も必要ではないかと思う。
 - ・今、燃えるごみの量が目標値に向かって、着実に、皆さんの協力で成果を上げてきているが、この中で大きな割合を占める紙ごみが減れば、より大きな成果、資源化につながると考え、今後、力を入れていきたいと考えている。
 - ・また、不法投棄を減らすため、ごみステーションの規則をルール化して、きちんと整備することで、ボーナスとペナルティがついて回るようにしたい。
 - ・さらに、情報がきちんと共有化されるよう、町内会にもお願いし、加入率100%という目標も立てていただきながら、全員が関係するごみ処理について、みんな情報とルールの共有化をしてほしい。
 - ・こうしたさまざまな取り組みを進めても、それでも同じように行動できない人は、自己責任とコスト負担という意味で、ごみ袋の有料化に入っていく必要があるのではないかと思う。少しずつでも、個々人の認識を高めていく必

要がある。

- ・そうした過程で、子どもを抜きにしてはできないと思う。子どもを巻き込んだ学習の中で、ごみの減量、散乱の減少に向けて、工夫して進めていきたい。
- ・目標（11）については、3つの目指す姿に向けて、この指標で目指すのは、テーマが大きく難しい問題であると感じる。コストの面からも、テーマ設定が難しい。そのため、ゴミの散乱がなく、きれいな公園がつけられるといった、目標（9）との関連をもって進めていきたい。

- 委員：
- ・目標（10）については、まちづくり指標の1つ目「長く住み続けたいと思う人の割合」は80%と高いが、その裏には、住まざるを得ない、引っ越しできないという数字も入っているのではないかと考える。2、3年前に引っ越してきた世帯の調査もすると良いと思った。指標の2つ目「歩きやすい、運転しやすいと感じている人の割合」は、まだ50%強ということだが、昼間の安城街道や国道419号線は非常に混んでおり、運転しやすいとは言い難い。公園や施設の整備が進むと、より歩きやすい、運転しやすいと感じる人の割合が上がるのではないと思う。市民意識調査についても、50%に届かないということで、市内の中部公園という立派な公園と同じような規模の公園がもう少しあると、もっと割合が上がるのではないと思う。
 - ・目標（12）の中の防災分野については、「基盤づくり」を「地域づくり」と明確化した方が良い、「自助」を大切に、標高の見える化を一層推進、過去の災害を風化させないよう、子ども防災リーダーの育成が必要といった意見が出された。まちづくり指標の1つ目「自身の備えができていてと感じている人の割合」が4分の1程度というのは、少ない。「自助」の意識を深めることをもっと推進していきたい。防災・減災で重要なことは、それぞれ自分自身、家族が、被害想定を共有し、1週間くらいは生き残る現実的な計画を立てること。防災・減災の鉄則を、野球に例える記事があった。“空振りには許されても、見逃しは許されない”。空振りしても事前に準備しておけば、減災の効果は出てくると思う。

- 委員：
- ・昨年度は、あいさつ運動をやろうということで、分科会でも話し合ったが、具体的な方策が見つからず、あいさつ道路をつくるまでは取り組めなかった。今年は、自分たちで行動しよう（自助）ということで、前回の分科会の前に、高浜市防犯委員会を参集した。まずは行動を起こすということで、デモンストレーションをしようと、夜間パトロールを実施することとなった。行政、防犯委員の協力を得て、9月20日の22～23時に、高浜市内の地域の全青パトや警察のパトカーなどが市役所に集まり、市長などの激励の元、夜間一斉パトロールを実施した。大規模な取り組みであったため、一般市民の方にも全体的に伝わったと思う。こうした活動を増やせば、市民の関心が高まり、心にも伝わると思う。「あれは良かった」という声も聞いている。子どもや親子の青パト体験乗車を行って、防犯活動を知っていただくことも考

えている。定期的に、まち協合同でのパトロールを実施したい。犯罪者は、こうしたパトロールが一番嫌いであるため、活発にすることで、市外に出ていくと思っている。これからも皆さんのご協力をお願いしたい。

委員：・目標（13）については、指標が達成されず残念だが、他の分科会の話の聞いていると、いろいろなところでちょっとしたボランティアをしている人が多く嬉しかった。ただ、その人たちのことを把握することは難しかったと感じる。福祉ボランティアというのは、定義が難しい。そこで、まずはできることからということで、ボッチャの普及に取り組み、これが今後、指標につながっていくことを期待している。

委員：・目標（14）については、分科会のテーマ「もっと健康寿命を延ばそう」に向けて、さまざまな見直しを行うにあたっては、利用者の意見を聴くことが大切であると考えている。また、みんなが同じスタートをしたわけではなく、それぞれに自分のリズムがあるため、やり始めようとしたとき、いつでも情報が手に入る環境づくりが大切。

・65歳以上の高齢者の内15%が認知症と言われているが、その予防には運動が良いという話から、マイレージポイントの付与の上限が、健康づくり活動が40ポイント、福祉ボランティア活動が100ポイントとなっているため、健康づくり活動に対し、ポイント上限を上げて良いのではないかと思う。吉浜地区で配布された「元気の源マップ」について効果があるようなら、他の地域に広げていいのではないか。

会長：・本日は、分科会職員リーダーの皆さんにも出席いただいているとのことなので、委員の皆さんの今のご発言を受けて、行政としての今後の決意などについて、1人ずつ簡潔にお聞かせ願いたい。

行政：・キャッチフレーズ等々浸透していく中で、みんなで力を合わせてまちづくりができるよう、きちんとした情報を発信していくことが課題と思っている。

行政：・市の財政状況への関心の割合が減ったのは残念という意見が多く聞かれた。今取り組んでいる財政クイズ、ゲームにしっかり力を注いでいきたい。

行政：・目標（4）については、情報発信の必要性を訴える方が多かった。今年度、「高浜（まち）の学校」として新たな取り組みをスタートしたが、人集めに苦労した。企画倒れがあっても、めげないでつなげていくことが大事という言葉も、励ましの言葉として頑張っていきたい。

・目標（6）では、子育て関連施設の民間活力の活用ということで、不安と期待の入り混じった感想が示された。こうしたところもしっかり情報提供が必要であると思っている。

行政：・地域では多くのイベントがあり、子どもも職員も多く参加させていただき、地域とのつながりができてきている。学校は、授業を通して子どもを育むことが本流だが、学校の中だけでは難しい。地域・家庭と協力してどう進めていくかということで、共通点となるのが「安全」だと考える。そこで、防災

にポイントを置いて、家庭も地域も学校も共通項を見出し、進めていきたい。取り組んでいることの見える化ということで、情報発信も考えていきたい。

- 行政：・目標（7）については、市民意識調査結果は緩やかに上昇しているが、働き盛りの数値が低いということもあり、まちが元気である根本には、やはり産業が元気でなければということで、今後も産業活性化の取り組みを進めたい。
- ・目標（8）については、とりめしについて意見を多くいただいた。情報発信力が弱いため、変な誤解を与えていると思う。長い目で、とりめしが高浜市のまちおこしにつながっていると情報を発信していきたい。
- 行政：・ごみの問題には、優しさと厳しさの両面が必要と思っている。優しさとして、ごみの出しやすい環境づくりを、厳しさとして、それでもルールを守れない人には毅然とした態度で挑むという気持ちで進めていく。
- 行政：・年明けから犯罪件数が増えており、4、5月でかなり増加、6月末では、前年度比55件（25.5%）増ということで、6月25日に犯罪多発非常事態宣言を出した。各種団体と一生懸命活動し、7月は微増だったが、8月は前年度76件から今年度45件と39.5%減となった。この勢いをもって、年度末まで減らしていきたい。今後もお力添えをお願いしたい。
- 行政：・指標の目標達成はなかなか難しいが、できることからということで、ポッチャに取り組んでいく。子どもから高齢者まで、障がい者も含めて、誰でも気軽に楽しめるスポーツであり、コミュニケーションツールとしても有効であると考えている。今後、しっかり広めていきたい。
- ・また、ポッチャ実行委員会の立ち上げも提案いただいた。その際には、ぜひご協力をお願いしたい。
- 行政：・利用者の声を聴くことが大切というご意見をいただいたが、併せて、分科会メンバーの方の声も大切にして進めていきたい。
- 委員：・市民会議を通じ、中期基本計画に向けてのアイデアをいただき感謝申し上げる。いよいよアクションプランの作成に入っていくため、大いに参考としたい。
- ・自治体の基本中の基本は、市民の満足度を上げることであり、それが行政の仕事だと思う。職員も、他人を喜ばせて自分も喜ぶ。職員としてのいきがいはそこだと思う。職員によく言うこととして、こういった会議では、「聴ける化」と「話せる化」の相互作用に加え、「見える化」と、今後は「見せる化」も含めて検討すると、面白い考えなどが出てくるのではないかと思う。
- 会長：・データを見ると、上昇しているものが多く、着実な成果が出ていると思っている。子どもの地域活動への参画者数で、計画策定時より下がった根拠を調べておいてほしい。データの取り方が違うと思う。数値はどんどん良くなっているが、でこぼこが出ているものがある。それは外部要因が大きいと思う。産業関係は特に影響を受けやすい。
- ・市民の満足度を上げることが使命という話があった。市民が満足するというのは、「自助」も「共助」も、自己負担もせず、誰かに何かしてもらいたい

うことではない。「国民幸福度（GNH）」という言葉が最近よく言われているが、福は物質的利益である。「幸せ」というのは、元は「仕合わせ」であり、それぞれが歩み寄るという意味である。「やってくれ」では幸せにはなれない。行政も市民に合わせていく、市民も行政に合わせていく中で、お互いが合わさっていくというのが、この総合計画の思想だと思う。

- ・行政は、この「点検・確認結果」を受け、すぐに実行に移せるものについては、現在実行中の事業に反映していただきたい。また、中期基本計画の策定、次年度のアクションプランの見直しや予算編成にあたっての「参考資料」として活用していただくようお願いしたい。
- ・会議終了後に、この資料は市長へお渡しさせていただく。

2) 分科会活動状況について情報共有

- 会 長： ・議題2『分科会活動状況について情報共有』に入らせていただく。
・資料3『各分科会の取り組みテーマと分科会開催状況』を参考にしながら、現在の各分科会の活動状況を伺って、情報共有を図りたい。
- 委 員： ・6，7月は、ガイドラインの見直し、出前授業の振り返りを重点的にやってきた。8月は、ポッチャについて、みんなでこういうものだとは認識してから分科会対抗ポッチャ大会に参加しようということで、実際に体験をした。
- 委 員： ・「広報でクイズ！」を11月1日号から始めようということで、正解者への賞品には特産野菜を考えていたが、なかなか難しい面もあり、また、市内の事業所等の周知も兼ねて、ふるふる、ぽっぽっぽ、授産所高浜安立、チャレンジサポート高浜の商品などとした。第1回はタカハマ物語のコーヒーを考えている。「財政ゲーム」は、すごろくやダーツなど、いろいろと案を考えている。
- 委 員： ・8月に「高浜（まち）の学校」の講座をいろいろ設けて実施した。今後は、秋バージョンとして、これまでの反省をしながら、めげずにいろいろな講座をやっていきたいと思っている。
- 委 員： ・7月に取り組みテーマの進め方を話し合い、学校防災をテーマに今年度は進めていこうと決まり、8月は、中身について情報共有をしたところ。
- 委 員： ・8月の高浜まち協夏まつりにチャレンジショップを出店し、みそおでんを提供した。トラブルもあったようだが、1つの成果だと思う。11月3日のわくわくフェスティバルでは、高浜ガールズコレクションと、チャレンジショップ第2弾を企画している。3月までに、三河高浜駅周辺でチャレンジショップを出店したいと思っている。厳しい状況もあるようだが、分科会では、立ち上げたいという団体をバックアップしていくこととした。
- 委 員： ・「広報でクイズ！」の賞品として、タカハマ物語のDVDもある。ご参考に。
- 委 員： ・不法投棄やルール作りの具体化に向けての話し合いをしている。メンバーが非常に熱心で、他市の事例を持ち込んでいただき、高浜市でも実施できない

かという良い資料・提案をいただいて話し合っている。目標が達成できるよう、しっかりまとめあげていきたい。

委員：・「自助」の認識、行動、理解を促していくという中で、「自助」無くしては「共助」はできないと考えている。これは、防犯・防災に共通して言えることである。防災分野では、標高の見える化をさらに推進していきたい。災害を風化させないよう、子どもを巻き込み、そこから親、おじいちゃん・おばあちゃんまで広めていきたい。

・防犯分野では、犯罪件数、交通事故を減らしていかなければいけない、今後、まち協、町内会、行政などを絡めて、深夜パトロールなどを行い、犯罪件数、交通事故発生件数を減らしていきたい。

委員：・地域のことは自分たちの手で守るという意識を、9月20日の一斉パトロールで持っていただけたのではないかと思う。自分のことは自分で守るということ。こうした活動をこれからも進めていきたい。

委員：・身近な福祉をNEWボランティアと捉え、その精神を広めていくために、ポッチャを推進していこうということで、毎回話し合いを進めてきた。分科会対抗の大会を開催予定となっている。人と人とのつながりができるような会にしていきたい。

委員：・「情報」は非常に大事。しかも、分かりやすいものでなければいけない。市民はどういう情報が欲しいのか、メンバーの意見を基に考えていきたい。

3) 第2回市民会議の進め方について

事務局より、資料4-①『第2回市民会議次第(案)』、資料4-②『第2回市民会議進め方イメージ』に基づき説明。

—意見・質問なし—

3. その他

委員： **ポッチャ大会について**

・分科会対抗ポッチャ大会へ多くの参加申込いただき感謝申し上げます。つながりの拡大をしていきたいということで進めている。ゲームの中で相手を思いやり、支えていく気持ちを育み、大家族の一員として誰もがNEWボランティア人として行動できるようにしていきたい。

・ルールには事前に目を通していきたい。試合時間については、かなり過密なスケジュールとなっている。不手際の無いようには進めていきたいが、皆さんにもご協力いただきたい。

・議事録は、書面表決とする。

・今後の日程 第4回推進会議：2月13日(木)

第5回推進会議：3月19日(水) ※終了後懇親会を予定